



三
二
一
C



所

万
理
良

言其扣遺序 體韻 上

言師石發隱先也性賢濬其良

一善之切也引九任之務如

商賦既美亦張流樂

本有疑聞 四吟

是境之終至也惟至

是境之終至也惟至

餘則實一言勝百以實矣由此
子益衆或謂且多習世之所貴也
丙申春書百卷夜行已亥歲祀
編出而前後百卷全焉今茲幸
春書肆下又求請想冥之間而欲
以刻之隱先笑曰多圖之則不費
損心力而兩獲千載但恐鬼哭
知之何書肆曰西工元是蓋無類
之心含有道之器若夫雨露集災
亦膏刃所至而尚任事也強請笑
辭於是無已而探怪聚妖而為
卷題百鬼拾遺問序於余
才辭隱老曰負俗之圖五
載而已不文而且行序則

事也因妄而隨而書其端矣

安永十年也春

元洲

藤武幹



百鬼夜行拾遺上之卷目錄

○ 屋敷 樹
○ 人面 樹
○ 遠處 樹
○ 天竺 樹
○ 燈籠 樹
○ 小人 樹
○ 蛇身 樹
○ 草 樹

○ 野人 樹
○ 人面 樹
○ 樹 樹
○ 樹 樹
○ 樹 樹
○ 樹 樹
○ 樹 樹



此の山は、
大正の天正書に
ありて、
今もその
名を
承るる
なり。

富士山

7









此圖繪有騎龍之仙人，其龍身如雲，龍首如龍，仙人衣冠華麗，手持長杖，正欲騰空而起。此為中國神話中常見的仙人乘龍圖。



此圖繪有兩位仙人，一位站立，一位坐於石上，均衣冠華麗，手持長杖，正欲騰空而起。此為中國神話中常見的仙人圖。





此の建物は、
江戸の名家に
あるものなり。
其の構造は、
極めて堅固で
あり、且つ、
美観に富んで
いる。此の建
物は、江戸の
文化の象徴と
して、後世に
傳へられてい
る。



此の人物は、
江戸の名家に
あるものなり。
其の容姿は、
極めて威風凛
々として、且
つ、美観に富
んでいゝ。此
の人物は、江
戸の文化の象
徴として、後
世に傳へられ
てゐる。

百光夜行拾遺中之卷目錄

○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

百光夜行拾遺中之卷目錄

○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○







大津
 大津の川
 大津の山
 大津の川
 大津の山
 大津の川
 大津の山
 大津の川
 大津の山
 大津の川
 大津の山



大津
 大津の川
 大津の山
 大津の川
 大津の山
 大津の川
 大津の山
 大津の川
 大津の山
 大津の川
 大津の山







あまのりゅう
 海に波の山、龍のくちかき
 舟をひきおろし、舟のなかへ
 舟をひきおろし、舟のなかへ
 舟をひきおろし、舟のなかへ
 舟をひきおろし、舟のなかへ



あまのりゅう
 海に波の山、龍のくちかき
 舟をひきおろし、舟のなかへ
 舟をひきおろし、舟のなかへ
 舟をひきおろし、舟のなかへ
 舟をひきおろし、舟のなかへ



大津路
おのれが手にしたての杖
おのれが手にしたての杖
おのれが手にしたての杖
おのれが手にしたての杖
おのれが手にしたての杖

おのれが手にしたての杖



大津路入風
おのれが手にしたての杖
おのれが手にしたての杖
おのれが手にしたての杖
おのれが手にしたての杖

おのれが手にしたての杖
おのれが手にしたての杖
おのれが手にしたての杖





百史夜行拾遺下走卷目錄

白(流)眼(司)昏(夜)露(生)門(下)
五(王)日(通)烟(烟)烟(烟)

○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○
德(方)測(和)毛(院)苞(十)
相(相)相(相)相(相)相(相)相(相)
院(院)院(院)院(院)院(院)院(院)



百史





此の鳥は、
 鳳凰の如し、
 徳を以て
 興る。其の
 羽は、
 五色に輝く。



此の草は、
 百薬を治す
 神薬なり。



徳川大学図書館 54-6 『百鬼夜行の巻』







此の如く
 月夜に
 扇を
 持てて
 歩む
 女は
 秋の
 風情
 を
 表は
 す



此の如く
 室内に
 坐す
 女は
 秋の
 風情
 を
 表は
 す

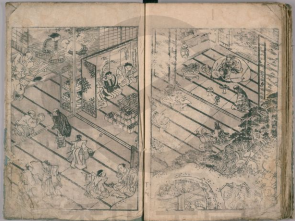




此の神は
 多岐の神也
 其の神徳は
 多岐に及ぶ
 故に多岐の神と
 稱す



此の神は
 龍馬の神也
 其の神徳は
 龍馬に及ぶ
 故に龍馬の神と
 稱す



鳥山石燕雙房畫

校合内人

卷二

享永十一年春

卷二 井上竹七

文化二元五年庚辰

新川六左衛門

江戸書林

本館

新川餘兵衛



四川大学图书馆 94114 《国朝言行略》